

2013年6月から2021年3月までに

バンコマイシン点滴静注とピペラシリン/タゾバクタムによる

治療を受けられた方へ

当センターでは下記の臨床研究を実施しています。この研究の詳細についてお知りになりたい方は、問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の情報等をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

#### 研究の名称

高齢者におけるバンコマイシンとタゾバクタム/ピペラシリン併用時の腎障害発症リスク因子の探索

#### 研究の対象

2013年6月～2021年3月に当センターに入院し、バンコマイシンとタゾバクタム/ピペラシリンによる治療を受けられた方

#### 研究の期間

研究許可日から 2023年3月まで

#### 研究の目的

グリコペプチド系抗菌薬であるバンコマイシン(VCM)は MRSA 感染症の第一選択薬として広く使用されていますが、代表的な副作用に腎障害があります。VCM 投与による腎障害発症のリスク因子として、これまでに様々な要因が報告されていますが、近年では、タゾバクタム/ピペラシリン(T/P)の併用がリスク因子として報告されています。これまでに VCM と T/P の併用による腎障害発症のリスク因子に関する研究がいくつかありますが、高齢者に特化した研究はありません。そこで、本研究では、VCM と T/P を併用投与した高齢者様における腎障害発症リスク因子を探索することを目的としています。

#### 研究の方法

上記の期間に当センターに入院し、VCM と T/P による治療を受けられた方の背景（年齢、性別、身長、体重、感染臓器、併存疾患、併用腎毒性物質の有無、ICU 入室の有無など）、VCM および T/P の投与状況（投与量、投与期間、併用

研究 - 参考書式 1

期間、VCM 血中濃度など）、検査結果（腎機能検査、栄養状態など）のデータを電子カルテより収集します。調査対象となった患者様を腎障害発症群と非発症群に分け、上記調査項目を比較することで、高齢者における VCM と T/P 併用時の腎障害発症に関わるリスク因子を検討します。

研究に使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、感染臓器、併存疾患、併用腎毒性物質の有無、ICU 入室の有無、VCM と T/P、Scr、BUN、総蛋白、アルブミン、VCM および T/P の投与量、VCM 血中濃度（トラフ値）、VCM および T/P 投与期間、VCM と T/P の併用期間。

研究組織

研究責任者：東京都健康長寿医療センター薬剤科 瀧川正紀  
共同研究者：東邦大学薬学部 実践医療薬学研究室 石井敏浩  
東邦大学薬学部 実践医療薬学研究室 田中博之

資料の入手または閲覧、開示

この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じてあなた自身の資料の要求または閲覧ができます。あなたがご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報を含む場合には、資料の提供または閲覧はできません。

お問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35 番 2 号  
東京都健康長寿医療センター

連絡先：東京都健康長寿医療センター薬剤科 瀧川正紀（平日 9:00～17:00）  
03-3964-1141（内線：2018）